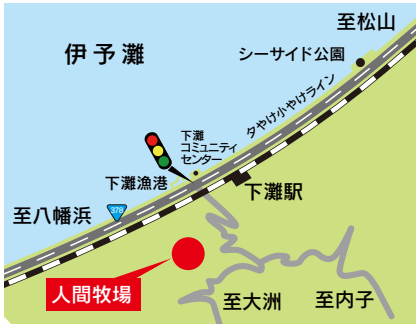
『人間牧場』～今、ここに心を解き放つ～

水平線に向かって放射状に収束するウッドデッキ。先端に立って体を乗り出してみるとわずかに潮の香りを含んだ風が体を通り抜けていく。足元には「ロケ風呂」と名づけられた五右衛門風呂が「ゆ」の暖簾を下げてたたずんでいる。竹で屋根を葺いたこだわりの「ロケ風呂」からは文字通り抜群のロケーションが約束される。左手奥に目をやれば、注目のツリーハウスが見える。設計を担当した息子さんの、家の中に木を通すという斬新なアイデアで「人間牧場」に相応しいツリーハウスに仕上がった。「ここは僕にとっての秘密基地。子どもの頃はここに本とハーモニカを持って遊びに来ていたんです」と牧場主の若松進一さん。時を越えて若松少年の夢を乗せた「人間牧場」に注目が集まっている。

水平線の家

ロケ風呂

ツリーハウス



■問い合わせ

●「人間牧場」は私設です。訪れる際には若松進一さんまでご連絡ください。
E-mail：wakamatsu@yuuhi.jp

●若松進一さんのブログで情報発信中です。
ホームページ http://yuuhi.jp/

Book Information

【フィット・フォー・ライフ 健康長寿には「不滅の原則」があった！】
ハーヴィー・ダイアモンド　マリリン・ダイアモンド著　松田麻美子訳・補遺
グスコー出版　2,100円（税別）

本書は朝フル健康運動のバイブルというべき有名な本。フィット・フォー・ライフとは生命の法則にフィットした生き方をすれば、生涯良い健康状態でいられるという意味である。健康は唯一健康的な生活からしか生まれない。食べ物はその人の生命の長さと質に多大な影響を与えており、私たちは本来の体の生理機能や構造上ふさわしいものからかけはなれた食べ方をしている。この本には、健康であり続けるための三つの原則が説かれ、その一つが「果物を正しく食べること」である。ページを開いた瞬間から、あなたは「健康」と「食べること」について今まで抱いてきたパラダイムの転換を求められるだろう。フルーツで朝食を！

Information

センターからのお知らせ

■平成18年度　まちづくり活動アシスト事業の助成団体決定

地域活性化を目的とした活動に幅広く助成する当事業ですが、今年も県内14団体（東予7、中予2、南予5）から申請をいただきました。審査の結果、次の4団体に助成を決定しましたのでお知らせいたします。

●新居浜市『自然と緑と花の島創造事業』
大島地域の環境浄化・美化と、来島者との交流促進を目指す。
特定非営利活動法人GOODWILL（代表　白石 徹）

●八幡浜市『酒蔵コミュニティ・ネットワーク事業』
酒蔵を活用した文化事業の開催と、それを通じた南予地域の活性化を目指す。
い～コーディネータNET南予地域活性化委員会（代表　三田地みさと）

●上島町『島の食文化再生事業』
島の野草・海草の採取、分布図の作成、料理レシピの普及によって地域の食文化再生を目指す。
ゆげ女性塾（代表　松下 るみ子）

●大洲市『多目的憩いの場整備事業』
商業施設跡の空き店舗を地域の憩いの拠点として整備し、活用。
大杉塾（代表　西田 和子）

※ 各事業に関心がある方は、センターまでお問い合わせください。

えひめ地域づくり研究会議からのお知らせ

■「県土縦断リレーシンポジウム2006」開催中！

今年度で20周年を迎える「えひめ地域づくり研究会議」では、ネットワークの再構築をメイン・テーマに「県土縦断リレーシンポジウム」を開催しております。未来の子どもたちへ胸張って残せる地域づくりを一緒に考えてみませんか？

●平成18年6月17日（土）　宇和島市総合福祉センター　（宇和島市）　―終了―
「この地域の進む道 - 生き残るための方策 -」

●平成18年8月27日（日）　リーガロイヤルホテル新居浜1F「菊の間」　（新居浜市）
「笑顔で結ぶネットワークの再構築（仮）」

●平成18年11月11日（土）　四国霊場第58番札所「仙遊寺」　（今治市玉川町）
「こどもから高齢者まで　未来の今治を創造しよう！（仮）」

●平成18年11月26日（日）　道後「宝厳寺」　（松山市）
「ネットワークの再構築・松山圏（仮）」

●平成19年2月10日（土）　20周年記念シンポジウムin内子座　（喜多郡内子町）
ネットワークの再構築の総まとめ、研究会議の20周年の総括、問題点と将来への展望など。

※ 各シンポジウムのお申し込み・お問い合わせは、センター内事務局まで。

【スローフードな日本！】

島村菜津　著　新潮社　1,500円（税別）

大量生産に大量流通、食のグローバル化の中で「味の均質化」はどんどん広がっている。スローフードとは何か？ キーワードは味の多様性である。いつでも、どこでも、同じでない味が息づいている世界。土地土地ごとに家庭ごとに違う、そんな味を大切にしようという運動である。その主役は、おいしいものを作り続けてくれる小さな生産者たち。今の食生活が、どれほど季節感や風土に根ざした味わいを失ってしまったか。あらゆる関係性の真ん中に食がある。お皿の外の視点を大切にし、スローフードな食卓から世界を変えよう。日本に初めてスローフードを紹介した島村菜津さんの新著。

お知らせ　財団法人愛媛県市町振興協会

サマージャンボの宝くじの賞金は1等・前後賞合わせて3億円。

1等2億円×42本　前後賞各5000万円　2等1億円×126本

カラコロ、カラコロ音がする。祖母がシノを織っている。シノは山に自生する萱のことで、これが浜の漁師のもとにいきイリコや海草を干す際のシートとして使われることは後で知った。中学二年の時、祖母がシノを織ったお金でギターを買ってくれた。五千円のガットギターであったが、これが私の楽器道楽の始まりだった。学生時代には食べるものを食べないで手に入れたりしながら、三十代半ばまでライブハウスに出ていた。あれから仕事を理由に楽器から遠のいたが、生まれ育った家に入ると必ず想いが甦る。そうだ、後半生は「音のある人生」をおくろう。カラコロ、カラコロと祖母がシノを織る音が、私の心の音である。山間の家に帰れば、家が笑い、ミカン山が笑う。（清水）

内容についてのご意見やまちづくり活動のトピックなどありましたら、お気軽に『舞たうん』編集係までお寄せください。

〒790-0003
松山市三番町四丁目十番地一
愛媛県三番町ビル二階
㈶えひめ地域政策研究センター
まちづくり活動部門
TEL089（932）7750
FAX089（932）7760
発行／平成十八年七月一日
㈶えひめ地域政策研究センター
印刷／岡田印刷株式会社